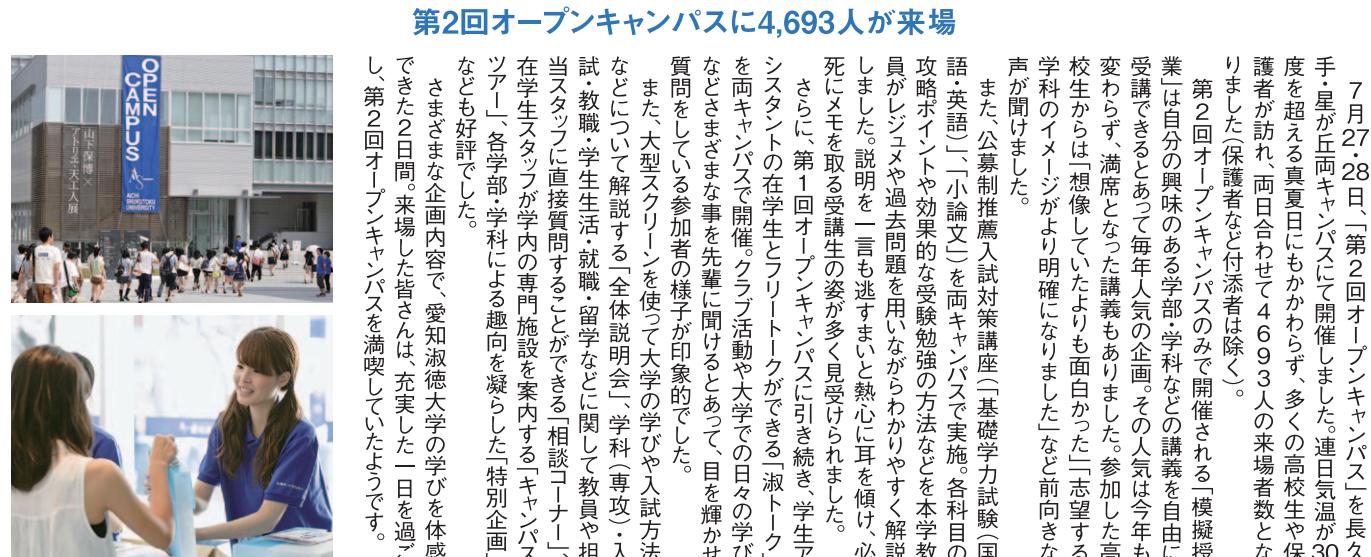


Campus Topics



第2回オープンキャンパスに4,693人が来場

7月27・28日、「第2回オープンキャンパス」を長久手・星が丘両キャンパスにて開催しました。連日気温が30度を超える真夏日にもかかわらず、多くの高校生や保護者が訪れ、両日合わせて4,693人の来場者数となりました(保護者など付添者は除く)。

第2回オープンキャンパスのみで開催される「模擬授業」は自分の興味のある学部・学科などの講義を自由に受講できるとあって毎年人気の企画。その人気は今年も変わらず、満席となった講義もありました。参加した高校生からは「想像していたよりも面白かった」「志望する学科のイメージがより明確になりました」など前向きな声が聞けました。

また、公募制推薦入試対策講座(「基礎学力試験(国語・英語)」「小論文」)を両キャンパスで実施。各科目の攻略ポイントや効果的な受験勉強の方法などを本学教員がじっくり過去問題を用いたわかりやすく解説しました。説明を一言も逃さずまいと熱心に耳を傾け、必死にメモを取る受講生の姿が多く見受けられました。

さらに、第1回オープンキャンパスに引き続き、学生アシスタントの在学生とフリートークができる「淑トーク」を両キャンパスで開催。クラブ活動や大学での日々の学びなどさまざまな事を先輩に聞けるとあって、目を輝かせ質問をしている参加者の様子が印象的でした。

また、大型スクリーンを使って大学の学びや入試方法などについて解説する「全体説明会」、学科(専攻・入試・教職・学生生活・就職・留学など)に関する教員や担当スタッフに直接質問ができる「相談コーナー」、在学生スタッフが学内の専門施設を案内する「キャンパスツアー」、各学部学科による趣向を凝らした「特別企画」なども好評でした。

さまざまな企画内容で、愛知淑徳大学の学びを体感できた2日間。来場した皆さん、充実した一日を過ごし、第2回オープンキャンパスを満喫していました。

2012年度留学生別科修了式



高校生が在学生と共に授業を受講～「愛知淑徳大学 体験講義2013」レポート



2012年度留学生別科修了式が2013年5月20日に国際交流会館(アイハウ)で行われました。11人の修了生が本学での留学生活の思い出を胸に式に臨み、島田学長からそれぞれに修了証書が授与されました。

その後、修了生を代表し、イギリス出身のThomas Benjamin Cairns(トマス・ベンジャミン・カーンズ)さんが、日本での留学生活を支えてくれた別科教員友人、国際交流センタースタッフへの謝辞を日本語で述べました。島田学長からは本学留学生別科で学んだことを生かし、帰国後も日本と母国の友好の架け橋になつて欲しいと、修了生の今後の活躍に期待を込めお祝いの言葉が贈られました。

修了式後は記念撮影とパーティーが行われ、修了生は別科教員やクラスメートたちと思い出話に花を咲かせていました。修了生たちは母国の大・学院に戻り、学業を継続する者、就職する者など、皆それぞれに新しい目標に向かって歩み始めています。

国際交流会館・AS保育室竣工式



去る10月2日、長久手キャンパスにて国際交流会館・AS保育室の竣工式が挙行されました。

国際交流会館1Fラウンジにて開催された祭場には、小林素文理事長や島田修三学長はじめとする学園関係者16人、設計監理を担つた株式会社日建設計と施工を行つた清水建設株式会社の方々14人が参集し、厳肅な雰囲気の中、すべての祭儀が満りなく執り行われました。

そして宮司様からの「伊勢神宮式年遷宮・遷御の儀」が執り行われるこの佳き日に国際交流会館・AS保育室が無事に完成され、竣工をひと足先に体験してしまった。教職員による個別相談では、高校生や保護者が入試・学科(専攻)の専門的な学修をひと足先に体験してしまった。教職員による個別相談では、高校生や保護者が入試・学科(専攻)の特長・学生生活・卒業後の進路などについて積極的に質問し、疑問や不安を解消。晴れやかな笑顔を浮かべています。

修了式後は記念撮影とパーティーが行われ、修了生は別科教員やクラスメートたちと思い出話に花を咲かせていました。修了生たちは母国の大・学院に戻り、学業を継続する者、就職する者など、皆それぞれに新しい目標に向かって歩み始めています。

「愛知淑徳大学 体験講義2013」は、高校生の学ぶ目的や意義を明確化し、大学進学への意欲をより高める機会になったことでしょう。

Campus Topics

キャンバストピックス

大 学

豊橋発 コミュニティー＆ライフスタイルマガジン “fratto”編集の仕事展

5月28日から6月13日、「インテリアデザイナー・鳥居佳則・インテリアパースの原画展」を開催しました。鳥居氏は1959年名古屋市生まれ。鳥居デザイン事務所代表で、この地方を代表するインテリアデザイナーの一人です。ミニギャラリーでは2011年度にも、氏がデザインした店舗などの写真パネル、イメージの根源となるオブジェの展覧会を行いました。その際のレクチャードで提示されたインテリアパースは大変インパクトがあり、今回は念願叶った展覧会となりました。

A3紙面に描かれた100枚以上のイメージ。色鉛筆で丹精に着彩されたシンボル。製図法をすでに知る学生たちにとって大変刺激になりました。何枚も、何枚も描き続けること。コンピュータが主流のデザイン界でも基本は手書き。お客様の目の前で素早く空間を描きイメージ共有のツールとする

こともあります。手が動くのは何より強みになります。

展覧会の中盤、6月6日には「夢は実現するためにある」という熱いメッセージのギャラリートークが開催されました。何かしたいという想いは漠然と抱くのではないか。強く想えば夢枕に見るほどだと。『今すぐに100の夢を、たわいもないことでもいい』口に出せるか。そして、このうちいくつ叶ったか。なかなか叶わないこともあるが、夢は次々更新される。このエネルギーこそ、たくさんのお客様から支持され数々の仕事を成功させてきた原動力なのがと思うと、若者よ、圧倒されている場合ではない、身に沁みる時間でした。



6月18日から7月11日、「fratto」という季刊誌の展覧会を開催しました。豊橋市発の東三河・西三河・静岡県西部のタウン誌で、2006年創刊。これまで17巻が発行されています。名古屋市および近郊の書店で入手しやすく、すでに完売した号もあるため、今回の全巻展示は貴重な機会となりました。

数ある雑誌の中から一冊の雑誌を手に取るきっかけ。それには表紙デザインの力が大きいように思います。同誌の場合、特集写真一枚と少しの言葉。見る者をグッと掴みます。そしてバラバラとページをめくります。紙面中の写真やイラストも、同エディアを拠点としたフリーランスのカメラマンやイラストレーターによるものです。テキストも気心知れた複数のライターが手掛けています。最終日のギャラリートークでは、編集長の北川裕子氏に同誌を通じた編集の仕事をお話をいただきました。一冊の雑誌はどうのこうに作られるのでしょうか。企画立案・台割作成、取材アボ取り、ラフデザイン作成、現地取材、材料整理、フォント検討などの各プロセスを解説いただきました。創刊廃刊が目まぐるしい昨今の雑誌界において、同編集部はいいものつくことへの理解に恵まれた環境のことです。感謝の言葉が印象的でした。また展覧会では、同エリアの貴重な近代建築「豊橋公会堂」「愛知大学公館」の写真も展示されました。地域の魅力を地道な取材活動で発信する。地に足がついた魅力的な仕事だと思います。

インテリアデザイナー・鳥居佳則 インテリアパースの原画展

5月28日から6月13日、「インテリアデザイナー・鳥居佳則・インテリアパースの原画展」を開催しました。鳥居氏は1959年名古屋市生まれ。鳥居デザイン事務所代表で、この地方を代表するインテリアデザイナーの一人です。ミニギャラリーでは2011年度にも、氏がデザインした店舗などの写真パネル、イメージの根源となるオブジェの展覧会を行いました。その際のレクチャードで提示されたインテリアパースは大変インパクトがあり、今回は念願叶った展覧会となりました。

A3紙面に描かれた100枚以上のイメージ。色鉛筆で丹精に着彩されたシンボル。製図法をすでに知る学生たちにとって大変刺激になりました。何枚も、何枚も描き続けること。コンピュータが主流のデザイン界でも基本は手書き。お客様の目の前で素早く空間を描きイメージ共有のツールとする

こともあります。手が動くのは何より強みになります。

展覧会の中盤、6月6日には「夢は実現するためにある」という熱いメッセージのギャラリートークが開催されました。何かしたいという想いは漠然と抱くのではないか。強く想えば夢枕に見るほどだと。『今すぐに100の夢を、たわいもないことでもいい』口に出せるか。そして、このうちいくつ叶ったか。なかなか叶わないこともあるが、夢は次々更新される。このエネルギーこそ、たくさんのお客様から支持され数々の仕事を成功させてきた原動力なのがと思うと、若者よ、圧倒されている場合ではない、身に沁みる時間でした。



焼かない瀬戸の土projectワークショップ

毎夏、建築家出品の展覧会計画を都市環境「デザインコースの学生が手掛けています。今年度は奄美大島出身の建築家・山下保博氏が主宰するアトリエ・天工人（東京拠点の一級建築士事務所）の展覧会で、オープンキャンパスもあった7月27日から16日間連続で開催しました。準備期間としての授業は前期から、それ以前も自主勉強会として新年から、氏に感化され試行錯誤、進歩してきました。展覧会のテーマにもある「冒険」という言葉を噛み締めながら、地域の素材「土」からのものづくり、さらに瀬戸地方において現在、窯業原料にまつわる産業廃棄物が生じる背景や現況を調査し、会場を自施工するとともに報告を行いました。この過程では、日を輝かせて挑戦し続けている何人のプロの存在に支えられました。また協賛や特別協力いただいた関係各位にも多大なるご支援を賜りました。大学と地域と民間との相互作用によって、前へ前へプロジェクトが進んでいったように思いました。

展覧会の会場は、コース拠点の長久手キャンパス8号棟5階でした。学外一般の方へ開放する企画としてアクセスに不利はあるとしても、できる限り多くの方に、私たちが共有した問題意識を一目見ていただきたいと、広報活動も奔走しました。結果、残念ながら来館人数は例年の半分でした。この初動を一発の打ち上げ花火としないよう、今後の継続的な活動こそが重要であると痛切に感じています。

山下保博×アトリエ・天工人展 Tomorrow—建築の冒險—

「山下保博×アトリエ・天工人展」の関連企画として、展覧会場の一画で素材としても用いた「キラ」を使ったタイルづくりのワークショップを開催しました。キラとは、採掘後の原鉱を珪砂や粘土などの原料にする際に生じる、使い道にも処分方法にも厄介な産業副産物の一つです。瀬戸地方特有の呼び名で、雲母がキラキラ光ることを由来としています。通常のタイルや舗装ブロックは焼成して高強度を得るのですが、こじでは焼かなくてでも一定の強度と水に溶けない性質を得ることができます。開発の建材です。ポイントは、誰にでも手軽に試作いただけることがあります。3歳のお子様から大人まで、30分程度のワークショップの後自宅へ持ち帰り、まるで植物を育てるように、土と自然物からなる固化材と水が起こす化学反応を観察していただく内容としました。湿潤の状態から自然乾燥を経て固化まで約一週間。時間をかけてゆっくりカタチとなります。現在私たちを取り巻く環境は快適そのものとは断言できません。例えば、アスファルトに覆われた路面は夏場暑すぎて裸足で歩くことなど到底できませんし、散水してもあつという間に蒸発してしまいます。これらの建材は容易い施工性で安価です。しかし、これに限定されることのない、循環型で自然素材の美しさを兼ね備えたような可能性のあるものづくりがあつてもいいのではないかでしょうか。



Campus Topics

キャンパス
トピックス

大学

「いち一団結 市が洞」運動会を振り返って

小学校の校舎増築に伴う工事のため長久手市立市が洞小学校の運動会が5月25日に長久手キヤンバスにて開催されました。

運動会当日は天候にも恵まれ緑の人工艺に元気な小学生の歓声が響き渡りました。

本学での運動会開催にあたっては、小学校と事前打合せを入念に行い、3週間に渡り計10回の予行演習も実施しました。事前準備、予行演習の段階から教育学科の学生が、児童の誘導や集団行動の補助、用具の準備などを一生懸命に手伝いました。

当日は、早朝から準備に追われましたが、心配されていた駐車場保護者の対応も順調に進み予定通り8時45分に小学生の元気な開会宣言で運動会が始まりました。予行演習では上手くできなかった表現運動の演技や、高学年の組立体操(特にピラミッド)が本番で成功して喜ぶ児童の姿に学生が涙する様子を見て感慨深いものがありました。

長久手市の小学校には、学校教育体験・教育実習で学生がお世話をなっていますので、より良き関係を築くことができたのではないかと感じています。



ジェンダー・女性学研究所主催 ジェンダー／セクシュアリティ演劇プロジェクト にじいろちらしづし+牧村朝子ワークショップ



8月31日と9月1日、「本学の2013年度特別教育研究助成に認定された研究プロジェクト「演劇的アプローチによる『違いを共に生きる』啓発プログラム開発」の一環で演劇公演を行いました。学生たちの問題意識が演劇の主要なモチーフとなっています。出演者はおもに学生の同好会「ジェンダー研究会コアルック」のメンバーです。本学メディアプロデュース学部の角田達朗教授が監修を引き受けくださいました。本学非常勤講師や卒業生を演劇指導者として招いてくださったり、学生からの聞き取りやアンケート調査をもとに台本を作成したり、レズビアンタレント牧村朝子さんを招いたワークショップの同時開催を企画されたりするなど充実した内容の公演となるようご尽力くださいました。

先生方の熱心な指導のもと、学生たちも大半が演劇未経験者ながら真剣に練習に取り組んだおかげで本番には「ここだけの公演ではもつたない」などおほめの言葉をいただき、千秋楽の後、涙を見せた学生もいました。

10月14日、「名古屋ガーデンパレス」で開催された「富永伸先生を偲ぶ会」では、回想写真や文章の朗読、映像を交え、ありし日のお姿を偲びました。集まつた教職員や同窓生は、富永先生のお言葉、あたたかい笑顔を思い起こしながら、安らかな旅立ちを願っていました。

4月3回の公演で合計160人の方にお来場いただきました。大学祭の行われる11月3日11時より、内容と過程を振り返りつつ改めてワークショップを行う予定です。

Campus Topics

中学校・高等学校



富永伸先生を偲ぶ会

中学・高校の校長、短期大学の教授、学園の理事を歴任し、愛知淑徳の発展に多大な功績を残された富永伸先生が平成25年7月3日、89歳でご逝去されました。昭和23年、愛知淑徳高等学校で教員としての一步を踏み出された富永先生は、若手の頃から教務主任や校務主任の職に就かれ、戦後の新しい教育を第一線で支え続けられました。平成12年まで短大教授として教壇に立ち、愛知淑徳に勤めた通算年数は50年以上。温厚なお人柄で生徒を優しく導き、教職員の意見に真摯に耳を傾け、「伸び伸びとした自由で規律ある学園」の実現に力を注がれました。

10月14日、「名古屋ガーデンパレス」で開催された「富永伸先生を偲ぶ会」では、回想写真や文章の朗読、映像を交え、ありし日のお姿を偲びました。集まつた教職員や同窓生は、富永先生のお言葉、あたたかい笑顔を思い起しながら、安らかな旅立ちを願っていました。

「対話の時間」。思索をテーマにした対話は普段なかなか聞けないお互いの大切さ、現在学んでいることなどについて深く対話をしました。

4月14日から16日まで、高1の「思索と対話」の春合宿が岐阜県莊川にて行われました。静かな環境で、生まれてから15年間を振り返り、現在の自分をじっくりと見つめ、将来へと思いを馳せるための合宿です。

最初のプログラムは「からだからこころへ」。からだをリラックスさせる、不思議と心もリラックス。自分のからだと、心を大切にすることを学びました。

高校1年生が「思索と対話の春合宿」に高山へ



4月14日から16日まで、高1の「思索と対話」の春合宿が岐阜県莊川にて行われました。静かな環境で、生まれてから15年間を振り返り、現在の自分をじっくりと見つめ、将来へと思いを馳せるための合宿です。

最初のプログラムは「からだからこころへ」。からだをリラックスさせる、不思議と心もリラックス。自分のからだと、心を大切にすることを学びました。

最初のプログラムは「からだからこころへ」。からだをリラックスさせる、不思議と心もリラックス。自分のからだと、心を大切にすることを学びました。

最初のプログラムは「からだからこころへ」。からだをリラックスさせる、不思議と心もリラックス。自分のからだと、心を大切にすることを学びました。

最初のプログラムは「からだからこころへ」。からだをリラックスさせる、不思議と心もリラックス。自分のからだと、心を大切にすることを学びました。

Campus Topics

キャンパストピックス

中学校・高等学校

北アルプスで毎年恒例の夏山登山

愛知淑徳の夏山登山の特徴として、大正時代から続く伝統的な行事であること、北アルプスの主峰を登る本格的な山行であること、中高共通の自由参加の行事であるため学年を超えた縦のつながりが生まれることなどが挙げられます。5コース用意されているので、毎年違う山に挑戦することになりますが、このよつな形態で夏山登山を続いている学校は他にはありません。



今年は45人の生徒が参加して、7月29日から8月2日に「アルプス銀座」「表銀座」と呼ばれる人気コースを縦走しました。今年はこの時期の天気が全国的に不安定で、残念ながら4日目の常念岳登頂は雷雨のため断念しました。しかし2日目の上り、4日目の下りは歩き始めると雨があつて晴天が広がるという幸運にも恵まれました。3日目の尾根歩きは雄大な槍ヶ岳・穂高連峰を望みながらの気持ちの良い縦走となりました。参画者全員で燕岳(2763m)・大天井岳(2922m)にも登頂し、全員無事に下山しました。高山植物の女王“コマクサの大群落や幻想的な朝焼け、満天の星空、過酷な自然条件の中でも営業する山小屋での生活など、都会では味わうことのできない非日常体験は、参加者にとって夏の大きな思い出となり、貴重な財産となつたことを願っています。

愛知淑徳の夏山登山の特徴として、大正時代から続く伝統的な行事であること、北アルプスの主峰を登る本格的な山行であること、中高共通の自由参加の行事であるため学年を超えた縦のつながりが生まれることなどが挙げられます。5コース用意されているので、毎年違う山に挑戦することになりますが、このよつな形態で夏山登山を続いている学校は他にはありません。

メンバー決定後、事前に学習会を行って、事前準備をしました。



オーストラリア研修旅行

生徒16人が、8月21日から29日の間、シガボールを経由して、メルボルンに6泊しながら異文化を体験してきました。

今回の研修旅行は、メルボルン市内の班別研修、現地の劇場でのミュージカル鑑賞、またメルボルン郊外のバラットにあるソブリントビルでの砂金採り、ワイルドライフパーク見学など企画が盛り沢山で、生徒は十分楽しかったです。

中学2年生が高山で2泊3日の林間研修



初日は飛騨一之宮を中心に、ミニ登山。また分宿した各民宿ごとのさまざまな体験学習や食体験を就寝まで楽しみました。2日目は全て事前準備をしました。

この研修旅行は決して知らないことのない新鮮な体験であつたようだ。学校に届けられる収穫後のお米の美味しいしさに思いを膨らませました。その後は小坂の淑友館に移動。スタンツやダンスでキャンプファイヤーは大いに盛り上がり、少し落ち着いたところで（家族への手紙）を書きました。ふだん当たり前のこと、改まっては口ににくいことも、便箋に向かって書き綴る時間は静寂が館内を包みました。

最終日は、班毎にたてた計画をもとに、地図を手に高山市内の自由見学。名物の団子やアイスを頬張り、家族へのお土産選びに知恵を絞る姿があちこちで見られました。

この研修の意義を深めているのは、クラスの仲間と非日常的な3日間を送るということと共に、飛騨の人々との触れ合い、直接間接にその善意や親切を感じたことであったように思われます。

オープンスクールに2,000人超が来校



6月1日に、中学校オープンスクールを開催しました。今年は2000人を超える多くの方が来校されました。教室・実験室・グラウンド等では各教科のミニ体験授業が10講座のクラブ・同好会による活動披露・体験が行われ、熱心に実験や体験に取り組む児童の姿や、一生懸命にボールを投げたりバトンを回したりする様子もあり、参加者の満足度は高かったです。今回若干内容を変更した大アリーナでの説明会は、吹奏楽部、管弦楽部の演奏・バトン部の演技・中のスピーチという生徒発表ではじまり、学校紹介ビデオ「愛知淑徳―実り」の上映しました。校長・副校長からは、本校教育の概要と入試の説明を行いました。

本校のオープンスクールは、中学3年生を中心とした生徒の参加によって成り立っています。今年度も700人以上の生徒が、体験授業補助やクラブ活動、受付や案内などを行いました。生徒の明るく、親切な応対が多くの方から好感を得ました。

Campus Topics

キャンパス
トピックス

中学校・高等学校

2013愛知岐阜私立中学校進学フェア開催

受験を控えた6年生ばかりでなく、5年生以下の児童や保護者の方の参加も多く、本校に関しては、完全中高貫体制のカリキュラムに対する期待や高校での進路指導、補習授業についての質問等が多く、淑徳の教育に対する期待と関心の高さをあらためて感じさせられた二日間でした。

受験を控えた6年生ばかりでなく、5年生以下の児童や保護者の方の参加も多く、本校に関しては、完全中高貫体制のカリキュラムに対する期待や高校での進路指導、補習授業についての質問等が多く、本校は資料参加が参加して、7月27、28日の2日間、名古屋駅のウインクあいちで行われました。

入場者は5571人（27日2409人、28日3162人）と昨年を若干上回る出足でした。来場者の熱気は例年通りで、各校のブースには入試や校風について熱心に相談する保護者や受験生がひつきりなしに訪れ、志望校について少しでも多くを知りたい生徒や父母の姿をあちこちで見ることができます。本校のブースも終日来場者でにぎわい、「一日間で昨年を上回る197組の生徒や父母が訪れて、「入試の合格ラインはどれくらいですか」「生徒に人気のあるクラブ活動は何ですか」など、熱心に質問していました。

会場の中央には全参加校の制服が展示され、目当ての中学校の制服と並んで写真を撮る姿も数多く見られました。各ブースでの入試相談に加え、中学ごとのプレゼンテーションが2日にわたってのべ4回行われ、本校の説明時間には会場の外にまであふれる来場者がいました。また27日には、辻井いつ子氏（ピアースト辻井伸行氏の母）による「子どもの才能の見つけ方、伸ばし方」と題する講演会も行われました。会場では学校紹介の映像も大きなモニターで流されていて、個別相談会とあわせて私立中学校を知っていたたくよい機会になりました。



英語漬けの3日間、英語リッシュ・セミナー



今年もイングリッシュ・セミナー（イングリッシュ・サマー・キャンプ）が8月21日から23日に2泊3日で長野県木曽町で行われ、中高生49人が参加しました。普段はなかなか外国人の方と交流する機会がありましたが、このキャンプでは朝から晩まで英語漬け。自己紹介からはじまり、1分間でたくさんの英文を覚え発表する、英語劇を創作する、など様々なプログラムがありました。その合間に、英語の歌を歌つたり、キャンプファイヤーをしたり、ダンスパーティをしたり、アメリカのカーニバルを体験したりと、頭だけではなく体もたくさん使いました。最終日には各プログラムの優秀者の表彰があり、全員に修了証が渡されました。バスに乗り込む前に、スタッフの人との別れを惜しみ泣いている姿が、このイングリッシュ・セミナーの良さを物語つていたと感じました。